



佐賀市立金立小学校 学校便り 第6号

きんりゅう

学校教育目標 「志高く 心豊かに 学ぶ 金立」



令和8年6月25日発行
文責 校長 泊 裕人

仲間との絆

少し期間が空いてしまいましたが、6月10日から11日の2日間、5年生が北山少年自然の家で自然教室を実施しました。

協力すること、自立すること、相手を思いやる気持ち、責任感などを、自然の中で仲間と生活を共にしながら学んでいくために実施しています。学校ではできない体験活動を通して身に付けた豊かな人間性を、学校生活の中に活かし、さらにパワーアップした5年生として活躍してほしいと思っています。



学校 HP もご覧ください

【入所式での説明】



【フィールドビンゴ】



【お弁当満喫中！】



【焼きそば作りに奮闘】



【火の神・火の使い降臨】



【キャンドルのつどい】
～さまざまな出し物～



【大丸太切りに挑戦】



【アートクラフト】





友達と声を掛け合いながら関わりを深め、同じ遊びや活動を一緒に楽しむ姿や、みんなで気持ちを高め合って楽しむ様子が印象的でした。笑顔で過ごす時間が多く、友達と過ごす心地よさを十分に感じてくれたのでは…と思っています。

子どもたちにとって大切なことはたくさんあるのですが、この2日間でまた新たな宝物を手に入れたのではないのでしょうか。

見えてはいなくても…



ここ最近（といっても、数年前から…ですが）、子どもたちのSNS等のインターネット利用について、世界中で議論されています。オーストラリアでは既に16歳未満のSNSの利用規制が始まっており、ニュージーランドやヨーロッパ諸国でも規制強化の議論がなされています。その是非について語ろうと思っているわけではありませんが、自分も中高生の子どもの持つ親として考えざるを得ないところです。

Appleの創業者で元CEO、スマートフォンやデジタル機器を生み出した『スティーブ・ジョブズ』は、「家庭では子どものテクノロジー利用を制限している」と答えたと言われています。また、「家族の食卓では会話を重視する」としていたそうです。



彼が「スマホは悪である」「子どもは使うべきではない」と考えていたわけではないと思います。素晴らしい技術であり、その可能性は無限であることも確信していたでしょう。ただ、その一方で「素晴らしい、強力な技術だからこそ、特に子どもには慎重に使わせるべきだ」ということも同時に考えていたはず。

近年、子どもたちのトラブルの多くはネット上にあると言われています（実際に我が子の学校でもこの傾向は見られます）。心に傷が付く（傷を付ける）経験はできれば少ない方がいい。もっと言えば、無い方がいい。そのために、我々大人も守る方法を考えていければと思っています。

LINE・SNSってなに？

- 友達と連絡をとる便利な道具
- でも使い方を間違えるとトラブルになることもあります



まずは、6月の全校朝会でSNSについての話をしました。目の前にはいなくても、SNSのやり取りをしている先には相手がいること、書かれた言葉で傷つく人がいること、悪口や仲間外しなどは学校生活の中と同様許される行為ではないこと

などを伝えています。低学年の子どもたちには難しい部分もあったかも知れませんが、この先必要な内容だと思うので引き続き伝えていきたいと思っています。

悪口を書かない

- 文字だけでも相手は傷つきます
- 送る前に『言われたらどう思う？』と考えよう



悪口や人が傷がることを書く
「冗談だっただけに…」
文字だけのやり取りでは、書いている以上に相手の気持ちを傷つけることがあります。
送る前に相手の気持ちを考える
悪口や傷つける言葉は書かない

仲間外しをしない

- グループから外す・無視する
- ネット上でも思いやりを大切に



グループで仲間外しをする